

信用金庫の個人預金残高

ポイント

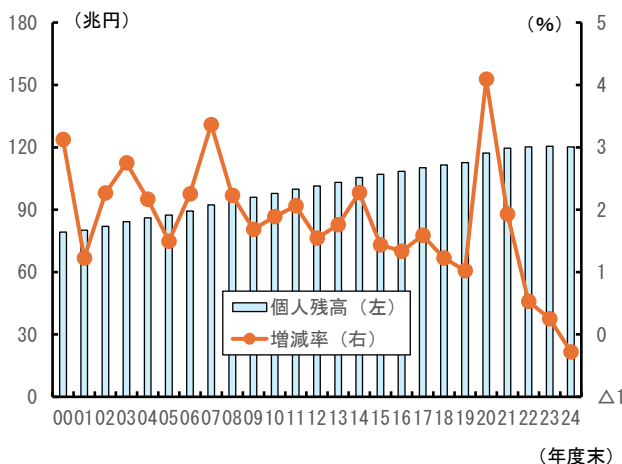
- 2024 年度末の信用金庫の個人預金残高は、前期比 0.2%、33 百億円減少の 120 兆 17 百億円となり、前年度末比でマイナスに転じた。
- 預金残高に占める個人預金残高の割合（個人預金比率）は、2009 年度末の 81.8%を直近のピークに低下を続け、2024 年度末には 74.3%となった。
- 2024 年度末の地区別の個人預金残高は、東海（0.3%増）、北海道（0.1%増）で前期比増加し、他の 9 地区で前年度末を下回った。
- 2024 年度の信用金庫別の個人預金比率（構成比）は、①70%未満が 16.9%、②70%以上 80%未満が 59.4%、③80%以上は 23.6%となった。

1. 全国の場合

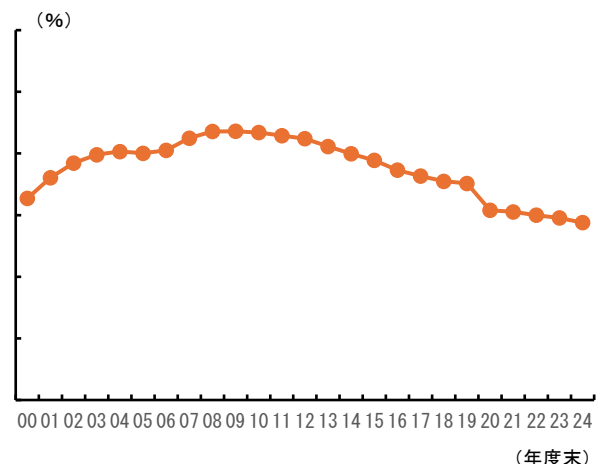
2024 年度末の信用金庫の個人預金残高は、前期比 0.2%、33 百億円減少の 120 兆 17 百億円となり、前年度末比でマイナスに転じた（図表 1）。年度末ベースで個人預金残高が減少したのは 2000 年度以降に限ってみても初となる。急速な人口減少や「金利のある世界」の到来による預金獲得競争が業態間で強まっており、信用金庫の個人預金の減少はこれらの影響を受けたものと想像される。

預金残高に占める個人預金残高の割合（個人預金比率）は、2000 年度末の 76.3%から上昇し 2009 年度末には直近ピークとなる 81.8%に達した。その後は緩やかな低下を続けており、2024 年度末には 74.3%に留まる（図表 2）。

（図表 1）個人預金残高の推移



（図表 2）個人預金比率の推移



（備考）1. 本稿では他業態との合併等を考慮しない。

2. 図表 1 から 4 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2024 年度末の地区別の個人預金残高は、東海（0.3%増）、北海道（0.1%増）で前期比増加し、南九州（0.8%減）、中国（0.7%減）、近畿（0.7%減）などの9地区で前年度末を下回った（図表3）。また2024年度末の個人預金比率は、最も高い四国の82.9%から最も低い北海道の70.4%まで10ポイントを超える開きがみられる。なお、2000年度末との比較では、四国と東海で7割超の増加幅となった。

（図表3）地区別の個人預金残高

(単位：百億円、%)

地 区	00年度末	10年度末	20年度末	23年度末	24年度末	00年度末比		00年度末 比 率	24年度末 比 率	24年度末 1金庫残高
						増減額	増減率			
北海道	737	990	1,151	1,197	1,198	461	62.5	69.0	70.4	59.9
東 北	621	706	849	878	876	254	40.9	78.3	73.5	32.4
東 京	2,947	3,574	4,027	4,118	4,093	1,146	38.8	75.9	71.8	177.9
関 東	3,231	3,815	4,537	4,691	4,684	1,453	44.9	80.8	77.9	95.6
北 陸	489	600	616	621	621	131	26.8	77.5	77.0	41.4
東 海	3,041	3,916	5,001	5,198	5,214	2,173	71.4	76.0	74.3	153.3
近 畿	3,045	3,874	4,870	4,919	4,883	1,837	60.3	73.2	73.1	168.3
中 国	780	904	1,013	1,034	1,026	246	31.5	78.7	76.0	51.3
四 国	300	429	511	535	535	234	78.0	84.5	82.9	53.5
九州北部	280	335	397	411	409	128	45.6	78.2	75.5	31.4
南九州	345	394	452	461	457	112	32.7	70.7	72.8	35.2
全 国	7,922	9,783	11,730	12,050	12,017	4,094	51.6	76.3	74.3	47.3

（備考）沖縄県は全国に含む。

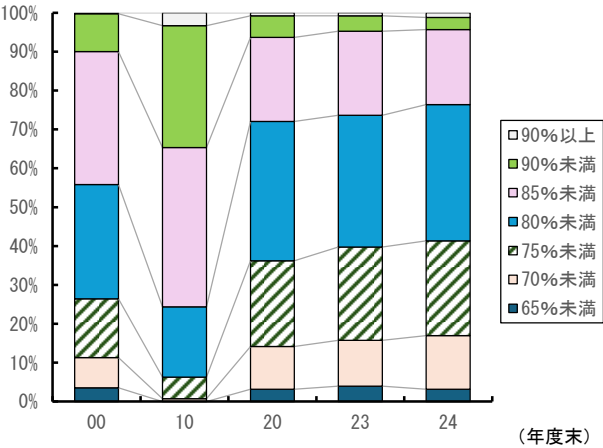
3. 信用金庫別の状況

2024 年度末における信用金庫別の個人預金比率（構成比）は、①70%未満が 16.9%（43 金庫）、②70%以上 80%未満が 59.4%

（151 金庫）、③80%以上は 23.6%（60 金庫）となった（図表4）。2024 年度末の平均は 76.3%だったが、中央値でも同水準（76.5%）であった。また比率の高い信用金庫で 90%台が 3 金庫、逆に低い信用金庫で 50%台は 2 金庫それぞれあった。

2000 年度末と 2024 年度末の構成比を比べると、70%未満が 11.3%（42 金庫）から 16.9%（43 金庫）に上昇し、80%以上は 44.2%（164 金庫）から 23.6%（60 金庫）に低下している。

（図表4）信用金庫別の個人預金比率（構成比）



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。